

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32615

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00160

研究課題名（和文）越境する日本の仏教音楽 宗教・文化・精神のグローバル化

研究課題名（英文）Japanese Buddhist Music in Transnational Contexts - The Globalization of Religion, Culture and Spirituality

研究代表者

GILLAN Matthew (Gillan, Matthew)

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：50468550

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本国内外の日本仏教コミュニティにおける伝統的および新しい音楽ジャンルの使用について調査した。ケーススタディでは、仏教音楽の社会的意味がどのように構築され、また、仏教音楽文化が政治的事情、教育運動、および日本内外のその他の社会的側面とどのように交差したのかを検討した。調査結果は、学会会議やシンポジウムにおいて成果を発表し、また数多くの学術雑誌や共著の中で論文を公表した。また、本プロジェクトでは、日本および海外の仏教研究者や音楽研究者と共同研究を行い、2021年に仏教音楽シンポジウムを開催するなど、公開で数回にわたり開催した。これらの講演は現在、書籍の形で編集集中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の仏教音楽は、明治以降の欧化政策および移民政策により、文化変容の波に遭遇した。「音楽」や「宗教」という西洋近代的概念は、仏教諸宗の「音楽」との関わりにも影響し、海外に展開した仏教音楽は、異文化と向き合いながら道を探った。

本研究の学術的意義は、日本国内外での日本仏教の近代化における音楽やその音楽活動に焦点をあて、近代の仏教音楽と国際社会との相互影響関係を論じたところにある。また、日本の近代化における急激な社会的変動が、仏教や仏教音楽にどのような影響を与えたのか明らかにすることができた。現在の日本社会における仏教団体の音楽文化をより分かりやすく理解できたことは社会的意義があると考えている。

研究成果の概要（英文）：This project investigated the use of traditional and new music genres in Buddhist communities within Japan and in the Japanese diaspora in the US mainland and Hawaii. The various case studies examined how musical meanings were constructed through spoken and written discourses, and also considered the ways that music-making intersected with political developments, educational movements, and other social aspects of the regions considered.

The research was presented in the form of presentations at academic conferences, and resulted in many papers in academic journals and book chapters. The project also collaborated with several Japanese and international scholars in musicology and Buddhist studies to give public talks, including the organisation of a Buddhist Music symposium in 2021. These public talks are currently (Spring 2024) being edited into book form.

研究分野：音楽学、宗教学、芸術学

キーワード：仏教音楽 仏教讃歌 尺八 声明 越境 近代仏教 仏教唱歌

## 1．研究開始当初の背景

本研究は、現代日本の仏教音楽の概念がどのように形成されてきたのか、日本がグローバル化するプロセスの中で、仏教音楽はどのような影響を受けてきたのかを明らかにすることを企図する。「世界の音楽」や「世界の宗教」という概念は、固定的な実体をもつものではなく、グローバリズムと対置される形で浮かび上がって来た地域の文化、価値体系をさすものである(Bohlmann 1997:68-69)。日本語の「仏教」もまた、そのような産物である。明治初期に religion の訳語として「宗教」が適用され定着するなかで、「仏教」概念も成立した(磯前 2003)。さらには、Buddhism という概念自体が近代の所産である。イギリスやフランスの植民地進出の副産物として、「ブッダ」とその教えが学問的な対象となり「仏教」が「発見」された(Almond 1988)。こうして19世紀に西洋的知によって括り出された当時のアジア諸地域の仏教は、「近代仏教 Modern Buddhism」と呼ばれる。欧米が出会い、とりわけ北米が自らの文化の中に取り込んだ日本仏教は、この意味での近代化された仏教である。日本の仏教研究においては、この「近代仏教」に対する関心が高まり、挑戦的なプロジェクトが次々に実施されている。他方で、「音楽と宗教」という課題は、現在の民族音楽学における重要課題のひとつであり、すぐれた研究成果が発表されている。それらの多くは、社会の近代化、グローバル化に遭遇した宗教文化が音楽をいかに活用してきたかを問うている。ところが、この二領域を結んだ研究、すなわち、近代化された日本仏教の音楽が欧米の音楽および宗教文化へどのような影響を与えたか、またそこからどのような反作用が日本仏教および仏教音楽に生じたのか、に関する研究は、未だなされていない。本研究は、この未開拓の領域へ踏み込み、さらに、「宗教」および「音楽」の緩やかな外縁が引き起こす社会文化的危うさをも問う独創的な挑戦である。

## 2．研究の目的

本研究が目指すのは、単に伝統的な仏教音楽が国内外へ普及する経緯を追うものではなく、音楽が新たな文化的脈絡にどのように適合するのか、またそれとの間でいかなる相互影響関係が生じるのかを探ることである。具体的には、以下の問いに取り組む。

- 1) 仏教各宗、各組織は、日本国外における宗教コミュニティでの宗教儀礼において音楽をどのように活用してきたのか。そこでの音楽は、本国で構築された伝統的枠組みにどこまで支配されるのか、あるいは影響されるのか。また宗教音楽は持ち込まれた当地の文化慣習に応じてどこまで変容するのか。
- 2) 日本の仏教音楽は、どこまで「日本文化」を代表するものになり得たのか。ここには、日系社会でのコミュニティ構築の機能などの問題が含まれる。アメリカ社会の芸術音楽への仏教音楽の導入や、「聖なる音楽」を題材としたイベントにおける声明など仏教音楽の上演も、この問いに関わる。
- 3) 日本国内の仏教音楽は、西洋由来の「仏教」「宗教」「音楽」などの概念からどのような影響を受けたのか。また、仏教の近代化が進む中で、仏教音楽が「音楽」としてもちうる神聖

性や芸術哲学は、どのように扱われてきたのか。「近代仏教」のなかの「音楽」はどのように位置づけられたのか。

### 3. 研究の方法

本研究は主に歴史的な資料調査を元に行った。資料を収集するために、3名の研究者は日本国内の図書館などを利用し、またニューヨーク、ハワイなどに保管されている一次資料を参考するために現地での調査を行った。ギランは明治時代の仏教系の新聞や雑誌（明教新誌、浄土教報など）、また音楽家間の書簡（玉田如萍、ジョン・カウエルなど）などを参考にした。大内は明治時代の日本研究関連の雑誌（Transactions of the Asiatic Society of Japan など）、または明治後期の「邦楽調査掛」と関連する資料などをもとに、声明がどのように評価されていたのかを分析した。遠藤は、ハワイ日系仏教で発刊した主だった宗派の讃仏歌集などを収集し、世代ごとに改編された創作の歴史と、移民の故郷の唄や踊りとの関連を研究した。

もう一つの研究方法として、国内外における関係者への聞き取り調査を行った。国外では、アメリカ本土やハワイの仏教音楽に関わった人物とのインタビューを行った。ギランはニューヨークの禅センターなどにおける尺八の役割についての聞き取り調査を行った。遠藤はハワイにおいて仏教讃歌の伝承に大きな影響をもたらしたアーネスト・ハント、ドロシー・ハントの孫やその他の関係者への聞き取り調査を行った。国内では、声明の実践や教育、新たな形の音楽法要に携わる僧侶へのインタビューを行った。大内は、僧侶養成機関で声明教育にあたるとともに国内外で多様な形の声明公演を行なっている齊川文泰師から情報を得た。ギランと遠藤は浄土真宗における音楽法要、特にテクノ法要といった音楽実践とその後の展開について朝倉行宣師へ聞き取り調査を行った。

### 4. 研究成果

ギランの研究成果は次の通りに分類する。

1) 北米での尺八音楽の受容についての分析を行い、主に1918年よりカリフォルニアで活躍していた普化尺八の演奏者の玉田如萍の経歴についての調査を行なった。ニューヨーク公共図書館に保管されている玉田の手紙や他の資料を調べ、玉田がヘンリー・カウエル、ジョン・ケージなど、米人作曲家との交流を探った。また、玉田と北米の仏教界との交流を明らかにした。研究結果は、東洋音楽学会の大会で発表を行い（2019年）、また論文として『一音成仏』に掲載した（2020年、2021年）。

2) 明治後期から昭和初期までの新聞や雑誌にみられる普化宗の復活運動を調査した。特に『明教新誌』『浄土教報』などでは明治時代に仏教の視点から尺八を取り上げる記事を確認し、この情報を整理し、論文として『一音成仏』に掲載した（2022年）。また、『三曲』雑誌に掲載された多くの記事からは昭和初期における尺八の宗教性についての言説を考察し、『Yale Journal of Music and Religion』に論文として掲載した（2021年）。また、小説家の中里介山が中心となっていたコミュニティの隣人会における活動を考察し、その会の月刊紙『隣人之友』に掲載された尺八家の高橋空山の記事を分析した。多くの文献で見たように、中里の宗教観はトルストイなどの普遍主義の影響で様々な宗教や宗派の越境を意図的に試みて

いたことがわかった。高橋は中里の社会的地位を借りて、旧普化宗の鈴法寺の復活、また普化宗自体を生きた宗教団体としての復興を目指していたことがわかった。

3) 浄土宗の僧侶であった岩井智海(1863-1942)の活動と彼が明治27年に出版した『仏教音楽論』の成立過程や社会的な意味を考察した。岩井が東京音楽学校に所属したこと、また神津仙三郎・伊澤修二などとの交流があったことが、彼の仏教音楽論に大きく影響したことを明らかにした。また、明治22年の大日本帝国憲法の公布が刺激した「国体」の創立という文脈において仏教音楽論の位置づけを試みた。本研究は『東洋音楽研究87号』(2022年)に掲載された。

大内は、はじめに明治初期に来日した欧米人の証言の分析を行った。当時の仏教音楽に対する欧米人の関心・理解を探ることと、「近代化」を潜った仏教音楽の姿としての「鑑賞」される声明のあり方の事例収集に取り組んだ。明治期に出版された“Transactions of the Asiatic Society of Japan”(総計50号の紀要・507本の報告や論文)は、異国の宗教文化への理解は精度が高いが、仏教音楽に触れたものはほとんどないことが明らかになった。

次に、明治初年から大正期にかけての、来日欧米知識人の記録、日本の音楽教育界の動きを分析するため、仏教音楽に対する認識の変化を追った。1907年に東京音楽学校へ邦楽調査掛が設置されたが、その経緯と展開の中で近代日本における声明の扱いが現れる。邦楽調査掛は、1910年に大原声明の竹内道忍を招いて実演会、1913年には同氏の実唱の録音、1916年に「雅楽及声明図書展覧」開催、1917年に新義真言宗瑜伽教如を講師として講習会等で声明を扱い、田辺尚雄など研究者の関心を喚起した。こうした「音楽」としての声明への関心は、高野辰之らの歌謡研究と交流し、やがて西洋の文化史研究を範とした仏教文化史研究へ引き継がれたことがわかった。

さらに、邦楽調査掛が近代の声明の展開に及ぼした影響を、とくに平曲家館山漸之進(1845-1916)の仕事を見直しつつ探った。館山は、その著作『平家音楽史』によって声明の「音楽」としての側面に光をあて、調査掛の関心を声明に向けるきっかけをつくっていた。また、『平家音楽史』の出版は、彼がもつ政界経済界を含む人的ネットワークを通じ、声明を仏教界や音楽界の枠を超えて認知させることにも繋がっていた。

最後に、館山漸之進に関する研究のまとめとして、当時の文化・社会政治情勢に位置づけて視点を深化させた。館山の『平家音楽史』刊行に多大な助力をした大隈重信の人脈、平曲界における福地桜痴との関係などから、声明が「音楽」として再発見された背景にあった人的ネットワークを探り出した。さらに、『音楽雑誌』の分析から、明治期の音楽界の仏教音楽に対する関心を探ることができた。

遠藤は、アメリカやハワイの日系仏教寺院を中心に歌われてきた讃佛歌の広がりとその実態を明らかにするため、戦前の日系新聞を用い使用される場や曲名を可能な限り抽出し分析した。讃佛歌は、1920年代には「聖歌」や「ヒ(シ)ム」(=hymn)として親しまれ、とりわけハワイ諸島では宗派を超えて歌える歌として、多様な日系仏教宗派の「教義」と絶妙な関係性を保ちながら日系仏教徒としての連帯感を醸成していた可能性が高いことがわかった。さらに、国内の本山における讃仏歌(仏教讃歌)の実践状況について、海外への定着が根強い浄土真宗本願寺派を例としてまとめ研究発表を行った。また、ハワイで2度の現地調査を行い、浄土真宗本

願寺派の Gatha Festival (ハワイ島) を参与観察し、浄土真宗本願寺派(4 版)、日蓮宗(1 版)、真言宗(2 版) の楽譜集を確認し入手し、各宗派の傾向や収録曲の分析を行った。

アメリカやハワイにおける日系仏教寺院を中心として歌われてきた讃佛歌の広がりのきっかけとその実態を総括するため、戦前期のハワイを中心にして資料調査を進めた。その結果、1918 年の「讃唱隊」登場から浄土真宗本願寺派による英語伝道部設立に伴うアメリカ本土様式の英語礼拝(英語讃仏歌)の導入、汎太平洋仏教青年大会(1930)を契機とした仏教音楽研究会の創設といった歴史的な流れと並行して、1936 年にはアメリカ本土へ仏教聖歌隊が逆輸入され、さらにハワイへ還流して、1 寺院(教会) 1 仏教聖歌隊の組成に至ったことを明らかにした。

ハワイにおける英語讃仏歌については、曹洞宗、浄土宗、東本願寺、本派本願寺の各寺社で補足の現地調査を行なった。また、当時ハワイでは、女性が讃仏歌の創作や教育に参加していた点を鑑み、ドロシー・ハント(Dorothy Hunt 1886-1983)らを中心に聞き取り調査を重ね、近親者を探り当て、当時の様相に関する貴重な証言を得ることができた。

科研費の研究期間に得られた研究成果は、研究代表者・分担者を編者として、『(仮)Music, Buddhism, and Japanese Modernity』2024 年 6 月の入稿を目指している。論文は日本国内での仏教唱歌(ギラン)、明治時代の音楽界と政界・言論界とのつながり(大内)、ハワイでの仏教讃歌(遠藤)をはじめ、日本国内や米国での日系コミュニティの仏教音楽を取り上げる初めての英語での論文集となる。また、遠藤、ギランは、松ヶ岡文庫所蔵の鈴木大拙英文書簡のうち、ポール・ケーラス宛の翻刻・翻訳を行うとともに、ポール・ケーラス宛の釈宗演の英文書簡も同様に行った。本内容は、『(仮)鈴木大拙及び釈宗演からポール・ケーラス宛英文書簡』(公財)松ヶ岡文庫の叢書八巻)として 2024 年に刊行される予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 マット・ギラン	4. 巻 87号
2. 論文標題 明治日本における「仏教音楽」概念の構築－岩井智海の活動にみる宗教・教育・国家・音楽の相互接続ネットワーク	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋音楽研究	6. 最初と最後の頁 25, 45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 マット・ギラン	4. 巻 51号
2. 論文標題 明治中期の新聞記事における普化宗復興運動と明暗教会の成立過程	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 一音成仏	6. 最初と最後の頁 2, 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大内典	4. 巻 2023年3月1日
2. 論文標題 「祈りをつなぐ声と音」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『大阪国際フェスティバル公式ブログ』	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大内典	4. 巻 2023年4月22日配信
2. 論文標題 「東大寺お水取りの声明は祈りの声」（インタビュー）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 朝日新聞デジタル	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤美奈	4. 巻 259号
2. 論文標題 メロディーの宝石箱《雪の山路》	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』』	6. 最初と最後の頁 29, 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matt Gillan	4. 巻 7/1
2. 論文標題 Sankyoku Magazine and the Invention of the Shakuhachi as Religious Instrument in Early 20th-Century Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Yale Journal of Music and Religion	6. 最初と最後の頁 24-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.17132/2377-231X.1203	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 マット・ギラン	4. 巻 50
2. 論文標題 二〇世紀前半の北米社会における尺八・仏教・前衛音楽 玉田如萍の活動を中心に (二) (資料編)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 一音成仏	6. 最初と最後の頁 2-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤美奈	4. 巻 257
2. 論文標題 メロディーの宝石箱《聖親鸞》	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』	6. 最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤美奈	4. 巻 251号
2. 論文標題 曲目解説「メロディーの宝石箱《出会い》」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 めぐみ	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤美奈	4. 巻 253号
2. 論文標題 曲目解説「メロディーの宝石箱《聖夜》」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 めぐみ	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 マット・ギラン	4. 巻 49号
2. 論文標題 二〇世紀前半の北米社会における尺八・仏教・前衛音楽 - 玉田如萍の活動を中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一音成仏	6. 最初と最後の頁 58-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 マット・ギラン Matt Gillan
2. 発表標題 Visions of Lumbini - Music, Buddhism, and Women's Organisations in Early 20th Century Japan
3. 学会等名 University of Tuebingen Department of Japanese Studies symposium: Women in Japanese Buddhism (招待講演)
4. 発表年 2023年



1 . 発表者名 Endo Mina
2 . 発表標題 The creation of English language Buddhist hymns in Nikkei Buddhist temples in Hawaii
3 . 学会等名 University of Tuebingen Department of Japanese Studies symposium: Women in Japanese Buddhism (招待講演)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Endo Mina
2 . 発表標題 Roundtable: Music and Sound in Japanese Religions
3 . 学会等名 Association for Asian Studies Annual Conference (招待講演)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Matt Gillan
2 . 発表標題 Nature, spirituality, and the avant-garde in Watazumi Doso 's (1911-1992) musical philosophy
3 . 学会等名 British Forum for Ethnomusicology Annual Conference (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Matt Gillan
2 . 発表標題 Theorizing Music and Religion in Meiji-era public discourse
3 . 学会等名 European Association for Japanese Studies Conference (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1. 発表者名 マツト・ギラン
2. 発表標題 明治日本における「仏教音楽」概念の成立 岩井智海の『仏教音楽論』を中心に
3. 学会等名 シンポジウム「越境する日本の仏教音楽」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 遠藤美奈
2. 発表標題 日系移民が歌う仏教音楽 - 越境のその先：讃仏歌、仏教聖歌、仏教讃歌 -
3. 学会等名 シンポジウム「越境する日本の仏教音楽」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大内典
2. 発表標題 寺を出た声明 - 近代化のなかでの仏教と音楽
3. 学会等名 シンポジウム「越境する日本の仏教音楽」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 マツト・ギラン
2. 発表標題 中里介山と高橋空山の交流と尺八の「宗教性」：雑誌『隣人之友』の分析を中心に
3. 学会等名 東洋音楽学会 大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 遠藤美奈
2. 発表標題 海外日系移民と讃佛歌の越境とその展開 - 初期の日系移民に注目して -
3. 学会等名 東洋音楽学会 大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 マツト・ギラン
2. 発表標題 北米における「Buddhist Temple Music」としての尺八イメージ 玉田如萍の活動を中心に
3. 学会等名 東洋音楽学会 大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤美奈
2. 発表標題 ハワイの日系仏教で歌い継がれる讃仏歌
3. 学会等名 第13回中日音楽比較学術研究会（中国：福州大学）（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	大内 典  (Ouchi Fumi)  (50213632)	宮城学院女子大学・教育学部・教授   (31307)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	遠藤 美奈  (Endo Mina)  (80772780)	沖縄県立芸術大学・音楽学部・准教授    (28001)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 越境する日本の仏教音楽	開催年 2021年～2021年
-----------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------